

目標達成計画

作成日: 平成29年4月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・5年、10年、その後も「久米の家」らしいケアが継続出来る事業所でありたい。	・ご利用者が本来のご利用者らしく、久米の家で生活が出来る。	・人をケア出来る人材を育てる。 ・「久米の家」のケアを次の世代に繋ぐ仕組みづくりを行う。 ・生命の大切さ、尊さを伝えて行き、その中で普通の生活のすばらしさを伝える仕組みを作る。	12ヶ月
2	23 49	「本当に久米の家での生活が楽しいのかな?・・・」「ご利用者の方は、ここで幸せかな?」と自己評価の時に話があがる。ケアがホームの内だけで終わっている事が多い。開所当時の写真を振り返ると「前は、外にばかりいたね。自由だったね。ご利用者が心から笑われているね。」と言葉があがる。安全、危険がないように、人員、ケアの質と課題は、沢山あるが、以前のようなケアが出来るようになりたい。	・1日の終わりに「今日も楽しかったな・・・」とご利用者が思わず言われるような1日を提供出来るグループホームになれる。 ・人材やチームを育てる力をつける。	・ご利用者の言葉や気持ちを汲み取り、それを実行出来る職員を育てる。 ・希望を叶える大切さ、普通の生活の大切さを伝えていく。 ・ご利用者のその日その日を大切に思える職員を育てる。 ・行きたい所に気軽に行ける仕組みづくりを行う。 ・地域で暮らす・・・と言う事を職員一同で本気に考える。 ・ご利用者の「楽しかった」カードを作ってみる。 ・外でケアが出来るしくみ、人材を育てる。 ・ご利用者の生活歴を今以上に詳しく聞き取りを行いケアに生かせるようなケアマネジメントを行う。	12ヶ月
3	13	職員の認知症理解に差があり、事業所間の認知症ケアの質に差がある。	・認知症ケアの基本を丁寧に学ぶ。	・本人本位の認知症ケアの実践にむけた視点のケアのポイントを学ぶ研修を行う。 ・実践に役立てるヒントをチームで学ぶ体制作りを行う。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。